

2020年度
クラスコメント

ちっち組

【健康】

食事、睡眠、排泄、元気いっぱい遊ぶ時間。からだところの健康は毎日の生活のベースです。自分の思いをしっかり表現して、思い切り楽しんだりリラックスしたりして過ごせるようになった姿を見ると嬉しい気持ちになります。

食事ひとつとっても、成長した姿を感じます。手づかみでおいしそうに食べる姿から、いまはスプーンやフォークをうまく使って口に運ぶ姿へ…。みんなと一緒においしい食事をほおぼる時間って、幸せですね。保育園ではよく「共食」という言葉も使っていますが、その喜びをどこかで感じながら、おなかも心も満たされていくのでしょうか。

また、気持ちを解放させて、思い切り遊ぶという時間も増やしてきました。気持ちの良いところに行くと、気分も開放的になりますよね。限られた環境ではありますが、それでも、子どもたちがたっぷり歩き回ったり遊びに集中したり、心が満たされるような時間を沢山持てたらと思っています。

気持ちを解放させて楽しむ時間、ゆったりと休息の時間…。それぞれの時間を大切に、心と体の両方が満たされて、安定して過ごしていける環境を心掛けて過ごしています。

【人間関係】

みんなが初めて保育園にやってきたとき、知らないお友だちや大人に囲まれて、最初は戸惑ったかもしれませんね。でも、沢山のひとと触れて心を通わせていくうちに、お互いが“いつもの”仲間となっていきました。保育園はきっと、みんなが最初に出会った「社会」でもあり、大きな「家族」でもあります。

「表現」や「言葉」(このあとお話しします)を通してコミュニケーションをとりながら、お友だちや先生との関係を築き、人間関係を学んでいる真っ最中のこどもたち。「わたしは、ぼくは、こう思っているんだよ！」という気持ちを受け止めてもらったり共感してもらいながら、こどもたちは、心が通い合う楽しさや喜びを重ねていきます。いろいろなひとと過ごしているぶん、ときには、思い通りにならなかつたり、気持ちがぶつかり合ったたりすることだってあります。ひとりひとり違う人間なのだから、当たり前ですね。そんなときに、どうやってそれを

乗り越えていくか。そこにも人間関係の学びがあります。

困ったとき、悲しいとき、怒っているとき、ひとりひとりの気持ちと丁寧に向き合っ、そっと支えてあげることが、私たち大人の大切な役割だと考えています。

「どうしようねえ」「〇〇したいよねえ」と寄り添いながら、一緒に考えて乗り越えていく中で、子ども自身も気持ちを立て直したり、相手と気持ちの調整をしていける(=コミュニケーションをはかっていける)ようになっていきます。

いままさに、その土台作りの時期のちっちさん。「こうやるのよ!」「〇〇でしょ!」…大人はつい、「こうあるべき」ということを子どもに求めてしまいそうになりますが、ちょっと立ち止まって、子どもの気持ちに目を向けてみる。一緒に感じて考えてみる。そのプロセスを大切にしていきたいと思っています。自分たちで考えてうまく折り合いをつけていける力を、いまの時期にしっかり育ててあげたいのです。

【環境】

ちっちさんにとって、この1年間は“初めて”だらけの時間でしたね。初めての保育園で、お友だちや先生に出会い、色々な物事に触れて…その中で様々なことを体験し味わってきました。一日一日過ごすうち、保育園が安心できる「生活の場」になりました。探索活動が大好きな時期には、お部屋を抜け出して、あっちへ行ったりこっちへ行ったり。大人の隙をついて、パーテーションを力いっぱいあけて脱走するのも上手になっていましたね(笑)

初めての水遊び、砂場遊び、お散歩先の神社や公園…最初はドキドキして泣いたり戸惑ったりする姿もありましたが、友だちの姿を見たり、大人に見守られたりしながら、少しずつ世界を広げてきました。不安なときやちょっとこわい…というときも、そばに安心できる人(場所)があれば、ちょっと勇気を出して踏み出してみることができます。そういう関係を築きながら、色々なものに関わり、興味を持ち、取り組んできたちっちさん。

ぐんぐん組の子どもたちと一緒に過ごす毎日、ちっちの子どもたちにとってはひとつの「環境」です。毎日自然と友だちの姿を目にしているので、大人が教えなくても、自分たちで色々なことができるようになっていました。お散歩の準備をしたり、食器を片付けてみたり、いつの間にか自ら取り組んでいました。観察力と、真似する力、立派ですね。これからも、子どもたち同士で、学び合える環境を心がけながら、子ども同士の関係の中で育っていく姿を見守っていきたいです。こんどは、いまのちっちさんが、次のちっちさんのモデルとなる番かもしれませんね!頼りにしていますよ。

【言葉】

ちっち組のブログなどでも“言葉のないコミュニケーション”の姿をたびたびご紹介してきましたが、ちっちさんは、目と目を合わせたり、表情や仕草で感情を表したり読み取ったりしながら心を通わせてきました。そうすると、大人は「おなかすいたよねえ」「楽しいねえ」「悲しいの～」「〇〇ちゃんだね」などと言葉を使って子どもの気持ちを受け止めたり共感したりしながら会話をします。赤ちゃんの頃に、この心の通いあった対話を繰り返す中で、少しずつやりとりが豊になっていきます。

驚かされるのは、子どもたちが言葉を獲得するまでに、もうしっかりと大人の言葉をよく理解しているのだということです。「あ～」や「えー」と喃語を話していても、大人の言葉に反応して行動したり、友だちの名前を呼ぶとその子のほうを指したり…。まだ言葉のない赤ちゃんも、しっかりと大人の言葉を聞き取り、意味を読み取っているのだということを実感しました。つまり、「言葉の獲得」はまだ言葉をしゃべらないうちから始まっているということですね。そんなやりとりを繰り返すうちに、今では「〇〇ちゃん」「〇〇せんせ～」と名前を呼んだり、「やだ」「うん」「やってー」など、色々な言葉が出てくるようになりました。

【表現】

「表現」の始まりは、「心の動き」かもしれません。心が動かされたとき、それが表情や仕草となって現れます。その心の動きを一緒に捉えることを大切にしてきました。それが”共感”につながり、コミュニケーションにつながり、言葉・人間関係につながっていきます。

始めはじーっと眺めていた朝の会も、「あーい」と手を挙げてみたり、歌に合わせてびよこびよこ体を動かしてみたり、いつの間にかいろいろな形で参加するようになりました。時には、じーっと見ているときもあります。それもそれで、その子の今の気分がよく表れている「表現」ですよ。

お友だち同士で笑いあったり、ものを取り合って怒ったりすることも増えてきました。こうやって、自分の気持ちを素直に表現する姿は、とつてもたくましくて頼もしいです。

◎さいごに一

この「5領域」で表される子どもの育ちの姿は、ひとつひとつの分野の育ちというよりも、子どもの姿を捉える5つの「視点」であり、それぞれがよく絡みあっているということです。

例えば、【言葉】や【表現】を通したやりとりは、「求めたときには誰かが応えてくれる、自分はそうしてもらえる大切な存在なのだ」という自己肯定感の育ちや、「困ったときは助けてくれる人がいるから、挑戦してみよう」という〈アタッチメント〉を基盤とした自立への姿にもつながっていく、大切なものです。そうして様々な【環境】に関わっていくなかで、人と人との心のコミュニケーションを紡いでいく【人間関係】も育っていきます。そして、そこには何よりも、心と体の【健康】が必要です。

こうして、子どもたちの育ちを色々な視点から見てみることで、ひとりひとりの違いや育ちを大切に捉えていくことができるのではないかと考えています。成長展を通して、これまでの育ちを振り返りながら、ぐんぐん組に向け、これからの育ちを楽しみに感じていただけたらと思います。ひとつひとつの姿と丁寧に関わりながら、そのときそのときの育ちを見守っていきたいですね。

ぐんぐん組

【健康】

身体がぐんぐん大きくなり、走ったりジャンプをしてみたりと、ぐんと成長したこの1年。今年は柳森神社や和泉公園、美倉橋児童遊園と、いろいろな公園にお散歩に行きました。お散歩も、避難車に乗るだけではなく、自分の足で歩いて向かう楽しさを味わっています。初めは保育者と手をつないで短時間しか歩けなかったけれど、今ではお友だちと手をつないでおしゃべりを楽しみながら歩いています。また今年は屋上でも遊べるようになりました。「今日は屋上で遊ぶよ！」と伝えると、「かいだんのぼる！」と1階から屋上まで頑張って登って行きます。この1年間で階段の上り下りもとても上手になりました。公園や屋上で沢山走ったり、ベンチからジャンプしたり、身体の使い方も学んで元気に遊んでいました。

食事では毎日、食材の絵と見合わせながら「何の野菜が入っているかな」とみんなを確認してから「いただきます」をしています。「にんじんさんだねー」「あ、これはぶたさんだねー」と食材にも興味を持って食事をしています。全部食べ終わるとお皿を持って、「みてー！○○ちゃんぴかぴかになったよー」と、得意顔の子どもたちです。お友だちとお話ししながら、楽しい雰囲気の中で食べる事への意欲も増してきています。沢山食べて、沢山寝て、丈夫な身体に成長したぐんぐんさんです。

【人間関係】

ぐんぐん組では、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを感じるなどの、社会性の発達や『人間関係』が大きく成長する一年です。友だちの遊びを模倣するところから、楽しいこと嬉しいことを共有したり共感したりすることを通して、友だちと一緒に遊ぶことが楽しくなってきました。

「かして」「いいよ」などの簡単な言葉のやり取りだけでなく、泣いている友だちを見つけるとティッシュを持って行ってあげたり、頭をなでてあげたり、寄り添う姿も見られます。お友だちの存在が気になる分、時には玩具の取り合いになり、涙を流しながらも、相手の存在や気持ちを受け入れるという社会性の発達が、今のぐんぐん組の『人間関係』に繋がっています。あの子は今どんな気持ち

かな、どうしてほしいのかななど、相手の欲求を理解して、それに応えようとする基礎になる体験を、友だちとの「関わり」を通して経験しています。子どもたちは、自ら友だちとの関わりの幅を広げ、相手を知ろうとしています。気持ちが通じ合った時の安心した表情や、笑顔と笑い声に、“友だちと一緒に楽しいね！”を全身で感じています。

【環境】

園庭のない都心の保育園ではありますが、うちの園庭は地域だ！という気持ちのもと、たくさんお散歩に行き、たくさん地域を知ることができた一年でした。柳森神社には遊具は一切ありませんが、子ども達はベンチに小石や葉っぱを並べて、お店屋さんを開きます。ベンチからのジャンプは一大アトラクションになりますし、「ここには神様が住んでるんだよ」とお参りの仕方を教えてあげると、今では自ら進んで手を叩いて頭を下げる姿があります。

近所をぐるっと一周するお散歩にもよく行きました。大人にとってはただの歩道に過ぎないかもしれませんが、子ども達にとってそこは宝の山です。街路樹の根元の小さな花、工事現場の重機、通り過ぎる電車や船、警察署のパトカーやおまわりさん、店頭の食べ物のメニュー、そして前を通るといつも出てきては挨拶してくれるボタン屋のおじさん。子ども達はそこでの様々な興味からたくさんの刺激をもらい、たくさんの学びや発達があったと思います。

子ども達のその姿から、道路ってこんなに面白いんだ！と大人が気付かされるほどでした。

【言葉】

4月当初はまだまだ言葉が出ないぐんぐんさんの姿があり、遊びも平行あそびが中心、言葉で思いを伝えるのも難しく、「やめて」「いやだよ」の気持ちもうまく表現できず、手が出てしまうことが多くありました。

しばらくすると、絵本などで興味を持ったものを指さし、「これは？これは？」と聞く姿や、気に入った歌を頑張って口ずさんでみる姿、好きな電車を「あお！」と色で表現したりする姿がたくさん見られるようになってきました。

そして2語文を話せるようになってからは、みるみる言葉は増えていき、そうしたことで自分の気持ちを言葉で伝えられるようになっていきました。“会話”ができるようになったことで手が出てしまうこともぐんと減り、友達との距離もぐ

っと縮まり、協同あそびも多く見られるようになりました。最近ではご飯を並べたちゃぶ台を何人かで囲んでいたり、ソファで医者さんごっこをして遊んでいたりもします。

おやつの時、「おかわり！」と言われ、フルーチェをカップにおタマで入れてあげると、「もうちょっと入れてよ！」と文句を言われました。「もうちょっと」の概念を獲得していることに感動したのを覚えています。

【表現】

「うた」と「絵本・紙芝居」がとにかく大好きで、お集まりの時などにたくさん絵本や紙芝居、そしてギターでの弾き歌いをしてきました。季節ごとの童謡や子ども向けのポピュラーソングをいろいろと一緒に歌ってきましたが、やはり流行る歌、流行らない歌がありまして、童謡では『ちょうちょ』『どんぐりころころ』『たなばたさま』『むしのこえ』あたりがお気に入り、『たなばたさま』に至っては、いつまでもリクエストが来るので、12月になってもずっと歌っていました。ちっちさんの部屋のおもちゃに、小さな洗濯板にビーズの付いたゴムひもを何本か括って、ジャラジャラと感触や音を楽しむものがあるのですが、彼らはこれをギターに見立てて歌いながら弾いています。感心したのが、プラスチックの札をピックにして弾くのです。本当に細かいところまでしっかりと見ているなと思いますし、その表現力に感心します。

絵本・紙芝居では『まるさんかくしかく』『きんぎょがにげた』『もこもこもこ』などが人気がありましたが、最近では『さんびきのこぶた』『きつねのタンバリン』などの長いお話も、しっかりと興味を持ち、集中して聞けるようになりました。お部屋あそびの際には、カップやマグネットのおもちゃを並べ、さんびきのこぶたごっこをしている姿も見られ、聞いて楽しかったお話を自分で再現して楽しむこともできるようになりました。

にこにこ組

【健康】

生活習慣の自立というキーワードで振り返ると、今年一年のにこにこ組は大きな成長の中で、自分でやろうとする意欲が強くなったなど実感しています。例えば衣服の着脱の場面、洋服棚から服を持ってきて汚れた服を袋にしまいに行く。自分で新しい服を着る。この一連の動作の中にもいくつもの「自分で」の頑張るポイントがあります。ほとんどの子どもたちが今、先生の手を借りずに着替えを一人でできます。できたことがすごいのではなく、やろうとする意欲が感じられる所に成長を感じます。また、食事をしてご飯粒がついたから、うがいをしたあとに袖口が濡れたから、お外に行つてズボンが汚れたから…など、汚れた服、濡れた服が気持ち悪いから「替えたい」と自然に思うことは日常での清潔の感覚が育っているように感じます。

食事場面では食べる量が増えただけでなく、自分で食べられる量・物について少しずつ理解が深まり、いっぱい食べられる物やちょっとだけ食べられるものをクリアしていく中で、今まで一切手をつけられなかったカボチャやサラダが食べられるようになって自信がついたり、完食して全てお替りする子も出てきました。汁物はお椀を持った方が食べやすい、スプーンやフォークは手首を返しながら食べるとすくいやすいなど、きれいに口まで運べるようになってきました。大人が当たり前前に思っていることも手先が器用になり、手首が滑らかに動くようになったことで、前腕から手までの筋肉をうまく使える様になってきました。このように1歳児クラスでの発達とは大きく異なる巧緻性の発達も2歳児クラスならではのかもしれません。

睡眠に関しては30分睡眠がその後の活動や夜の睡眠に対して丁度いい子、約60分で自然に起きる子、90分が丁度いい子など、それぞれのリズムができてきました。安定して1日の生活を送れる個々のリズムができたように思います。そして頼もしいことに、先生にトントンされなくても「一人で寝られる！」と自信を持って言って来る子が増えました。

排泄の自立に関しては、年度の始め、オムツいっぱいにおしっこが出ていた状態から、→少しずつ便座に座ってみる→ちょっとだけ出る→少し排尿までの間隔が長くなる→オムツに出ていない時にトイレで座ってみる→時々便座で排尿が成

功する→長時間尿を溜められるようになる・・・と、段階を経て個々のタイミングで布製のパンツトレーニングに移行してきました。トイレトレーニングは数カ月で終わる子もいれば、1年以上かかる子もいます。オムツが外れるには、体が発達していく過程で欠かせない身体機能の発達があります。それは随意筋（ずいきん）と呼ばれる筋肉の発達です。随意筋とは意識して動かせる筋肉のことで、排尿の際にしめたり緩めたりすることで尿をコントロールします。尿を溜める膀胱（ぼうこう）の発達と合わせてオムツ外れには欠かせない筋肉の一つです。また、腹筋や股関節周りの筋肉を強くすることで関連する膀胱周りの筋肉も鍛えられるため、保育園では積極的に下半身の運動にも取り組んできました。例えば階段上り、かけっこ、トランポリン、長距離の散歩などです。散歩は片道30分の道のりを20分程度で歩けるようになり、その分遠くまで歩けるようになったので、今まで行くことのできなかつた美倉橋児童遊園・佐久間公園・和泉公園にも歩いて行けるようになりました。一年を通して、脚力や体幹がしっかり育ってきたように思います。

【人間関係】

2歳児クラスの時期は、今までの一人遊びを抜け出して、他者理解の力が成長する過程で強く友だちを意識するようになっていきました。大人対子どもではなく、子ども対子どもの関わりがぐんと増えていきました。また、その中でも集団を意識するようになったことで、今までは出会うことが少なかった遊びの中でのルール、例えば順番を待つことや遊具の使い方を通して集団を意識して生活するといった場面が多くなりました。友だちが使っているから今は待とう、「かして」がダメなら「おわったらかして」というと友だちが、すんなり「いいよ」と言ってくれたことが嬉しくて、また一緒に遊びたい気持ちが強くなったり、言葉が相手に伝わる喜びを感じられたりする場面が最近特に多くなったように感じます。

自分の気持ちを言葉で伝えられるようになったことで、借りる側も貸す側の子も、ただ我慢をするのではなく、自分の中で見通しを持って順番を待つことができるようになったり、相手に対する思いやりの気持ちが表われたりする場面を沢山目にするようになりました。

【環境】

生き物、生活環境、遊びに分けて振り返りたいと思います。生き物では植物（朝顔・コスモス・パンジーなどの花、ナス・キュウリ・ピーマン・キャベツなどの

野菜)と動物(金魚・エビ・カブトムシ・鈴虫などの小動物)の観察や飼育をしてきました。季節によって野菜を実際に食べたり、切ってスタンプにして遊んだり、金魚に餌をあげたりカブトムシが卵を産んで大きく成長する所を毎日観察したりしながら、身近な生き物に触れることの楽しさを味わったり、思いやりの気持ちを持ったり、不思議さに心動かされる経験の中で好奇心や探究心を培っていききました。

生活環境では、「自分で」を意識しながら、だんだんわいわいさんに近づくことが楽しみになるように、例えば食事の時に自分で食べられる物の種類や量を選ぶように、「いっぱいちょっと」が始まったり、だんだん慣れていくにつれて幼児クラスと同じ配膳形式(自分でトレーに選んだものに乗せて自席まで運ぶ)を取り入れたり、できることが増えたことによって帰りの支度を自分でしたり、上のクラスのようにお当番活動でご挨拶の練習をする経験を取り入れてきました。

遊びでは、あつという間に上達していくので、もっと盛り上がるようにと、複数の友だちとでも遊べるような種類や量、難易度を変えたりすることで、次第にルールがあるボードゲームの様な遊びもできるようになっていきました。また、遊びと生活がスムーズに分けられるように動線を考えて、部屋の配置が変わったりもしました。

【言葉】

語彙数が圧倒的に増えたことで、友だちとのコミュニケーションが深まって、自分の気持ちや考えていることを一生懸命言葉で表現しようとする姿が増えました。気持ちが伝わることの嬉しさ、自分の経験したことを伝える楽しさを味わう中で、さらに言葉が育まれていきました。例えば、ごっこ遊びをする時、日常生活に出てくる単語に興味をもって、どんどん遊びに取り入れたり、自分がよく知っている物語をイメージして遊びに取り入れる時期でもありました。4月当初は「どうぞ」「いいよ」「ありがとう」と一言ずつのやり取りを楽しんでいた姿から、「いらっしゃいませ。何がいいですか?」「メニューはどれですか」「いっぱいいいですか?ちょっとがいいですか?」「私はエルサであなたはアナね」「今からパーティーするので〇〇下さい」など、様々な設定を想像し、また誰とどこで何をするという状況もごっこ遊びの中で積極的に取り入れるようになりました。

【表現】

子どもたちは遊びの中で、自分のイメージしたものを平面、立体物の作品、あるいはごっこ遊びとして表現します。そして、成長と共に作品の内容や、遊び方に変化が表れます。例えば、絵画で顔を描くとしめます。はじめの頃は大きく丸を描いて目がふたつ、口が一つだったものは次第に鼻、眉毛、髪を描くようになり、さらに手や足、体を描くようになっていきました。ただの顔から、「○○の顔」「○○の笑った顔」や、「○○と○○がお散歩を楽しんでいるお顔」など、だんだんストーリー性も表現するようになりました。

ごっこ遊びの中では「○○屋さん」が次第に「○○屋さんで買ってきたイチゴのケーキを○○に行ってみんなで食べるころ」や、「エルサの真似」から「アナと雪の女王ごっこ」になったり、自分の知っている物語の歌と一緒に歌ったり踊ったりと、様々なシチュエーションを考えるようになりました。また、ストーリーの内容が複雑化することで登場人物も増え、それにあわせて役割が分かれていきます。そしてだんだんと協同的な遊びが増え、友だちとの関わりも自然と増えてきました。

わいわい組

【健康】

1年の育ちを2つのポイントで説明をします。

1つ目は、基本的な生活の自立です。「食事」「排泄」「着替え」といった生活習慣で、自分で出来る事が増えました。

排泄では、パンツに変わったことではなく、生活の節目や促されてトイレに行くのではなく、自ら必要な時に排泄をすることや戸外活動前に排泄をするのは、排泄しておくことで戸外活動がたっぷり遊べるから、事前に済まそうと見通しを持てるようになってきました。

食事では、自分の適量を伝えることが出来るようになり、残菜が少なくなりました。「やって〜」と甘え上手なわいわい組の子どもたちですが、自分の出来るところまでは自分でやるように、最後は自分で完成するまでやる、と繰り返し接してきたことで、「先生、これ手伝って」と必要な部分を伝えられる姿も見られるようになってきました。急がせたりせず、やってあげすぎず、一步一步の積み重ねが必要なクラスの特徴があります。

例えば道具の使い方、持ち方といった微細な部分には、時間を掛けながら育ちを見ていくことが大切のように感じ、箸やハサミなど教えるような活動は控えて、遊びの中で間接的に経験できる環境を用意することで出来るようになる前の基礎、地固めを深めました。

2つ目は、体を使って遊ぶ（運動）ことで、体幹の育ちから運動ゾーンでの身のこなしから、園外活動を十分に楽しめる体力もついてきました。転倒なども減り、危険回避や怪我の防止、ボディーイメージが持てるようになりました。

具体的には、配膳時席まで運ぶ途中で汁物をこぼすことがよくありました。また、手洗いで袖を濡らしてしまう事、無意識に当たって倒してしまう、棚や物にぶつかるといったことがありました。これらが見られなくなってきた背景の一つに、ダンサー青木さんの体験は、振り返ると子どもたちの育ちに深く関わっているように感じます。身体の仕組みから、使い方に至るまで丁寧に経験することで、結果的に身体を上手に使えるようになり、それが活動の幅の広がりになり生活にも変化が見られました。

【人間関係】

クラスの友達が大好きなわいわい組。進級して、年上のお兄さん、お姉さんが出来たことでのうれしさや、遊びの幅が広がったことでの喜びを感じながらも、その世界に飛び込むよりも今まで過ごしてきたクラスメイト（同世代）と好んで過ごすことが多かった上半期。また、相手を意識するよりも「自分のペース」を大事にしているようで、相手が入ってくると身を引いてしまう事もあり、自分のやりたいことを思う存分にやりきる一步がなかなか見られませんでした。色々な友達ではなく、一人遊びや同世代と深く関わる時間を沢山持つていく中で、好きな友達と一緒に遊ぶ楽しさや、共有できる喜びを十分に味わった期間のように感じます。だからこそ、わいわい組の絆や仲の良さが深まったのかもしれない。この経験はすいすい組の時に大きく関わって来るように思います。

下半期になり、好きな友達ができ、同世代だけでなく様々な友達と一緒に遊ぶ楽しさを経験していく中でトラブルも見られるようになってきました。そんなつもりはないのに「なんで邪魔するの?」と感じてけんかになる事も出てきました。心のぶつかり合いがこれから頻繁に起きてくるように感じます。ピーステーブルの「相手の話を最後までしっかりと聞こう」「自分の気持ちを言葉で言おう」「話を聞くときは相手の顔を見よう」といった経験がこれからとても大切で、子どもたちの育ちに大きく関わってくるでしょうし、今もこれらの大切な経験を日々過ごしています。

【環境】

子どもたちは、日常生活体験や公共物、仕事などへの興味関心が高くそれらを遊びの中に取り入れていました。また、動植物のお世話や観察を好む姿も多く、ゆっくり、じっくりと物事に向き合っていました。身近な世界を大事にする特徴と慎重な姿が見られましたが、身体の成長と体験を繰り返していく内に自信がつき、さらに友達が存在が安心となり、様々な場所や物事に繰り返し出そうとする活発な一面が増えました。

遊びに関しても、深めて遊びこむよりも、触れる程度で終える事柄が多かった子どもたちでした。そのため、一年の間には何度も環境を作り替える事を進めました。ゾーンの空間の広さや遊具の内容を変えていくこと、必要な道具は、どれでも、何でも、ではなくて、絞って提供をするなど繰り返し丁寧に進めていくことで、自分のやりたいことを作る（これ用意して、これ使いたい）姿やこれを残したい、もっとやりたいという姿が多くなりました。「これはなに?」「これはどうすればいいの?」と自分の周りにある世界や社会に対しての質問も増え、環境

に働きかける行動範囲が広がっていくことで、活動も豊かになった一年でした。

【言葉】

相手に自分の思いや考えを察してもらおうと身構えたり、本当は自分の思いはあるけれども、どうやって相手に伝え、わかってもらおうかと考えてしまったりする姿がありました。また、深く気持ちを通わせ合ったり、嘸み締めるなどが少なく、流れのままに過ごしていくこと、「まあいいか」と流してしまったり、自分の中で解決して終えていたように感じます。

「自分の気持ちや思いを相手に伝える」という事の前に、自分の考えや思いを持つという事からの育ちでした。例えば、朝のゾーンを選ぶときに「自分の身体の状態や気持ち」が上手くつながっていない様子が見られていました。そのため、クラス（環境）にも入っていくことが難しく、足踏みをしてなかなか進んで入っていけないことがあったように思うのです。子どもたちの心の声を大切にする活動として、ゾーンを決めるときにじっくりと向き合い、確認することを大切にしました。一つ一つ、丁寧に今の気持ちを確認するという事です。繰り返す中で「考えや思い」を深め、活動に結びつけていく経験をしました。ただ、自分の本当の気持ちはまだよくわからない子どもたちは間違えることもたくさんありました。その都度一緒に考えた時間は計り知れませんが、この関わりの連続が心の言葉を育み、例えば集まりなどで自分には関係ないと意識がないことに変化が見られて参加する姿へと成長し、登園時に自ら目的を持って部屋に入ってくる姿に変わってきたように感じています。

日々の生活の中で「これやりたい」という自分の気持ちのやり取りが頻繁に起きていく中で、気持ちを伝えられるようになってきました。簡単なやり取りから、今では自分の伝えたいことを帰りの会で発表し、「相手にどうやって伝えるか」「相手の話を聞こう」というやり取りがより深まってきています。

【表現】

簡単な見立てや作り物をしたり、手伝ってもらったり、やってもらう事が多かった子どもたちが今、自分の好きな遊びを見つけて、遊びこむようになってきました。

遊びの幅の広がりや、出来る事が増えた一年の特徴には、らんらん組、すいすい組の存在が大きく、制作物や遊びの見本やモデルが身近にある環境が子どもたちの成長に影響したことを感じた一年でした。 また、経験を「真似て」いく中

で「自分のやり方」を見つけ、やってみようとする姿へと広がり、今では、「僕（私）が作った大切な物」を沢山作り上げられるようになってきました。「あんな風になりたい」「やってみたい」という意欲の芽生えが著しく広がりました。自分だけで楽しむよりも、友達と一緒に物事を体験する面白さにも出会ってきたように感じます。それによって、バリエーションが増え物事がより楽しくなり、それらの経験はわらべうたや童謡、簡単ゲームへの興味も芽生えてきて挑戦する姿も増えてきました。

らんらん組

【健康】

日常生活の上での基本的な習慣は、ほとんど自立し、見通しを持って行動する育ちが見られるようになりました。登園から降園までのお支度、活動における準備や片付けなど、友だちとの関わりながら園生活での見通しが持てるようになってきました。集団で生活しているからこそお互いを意識し合い、自ら意欲的に行動できるようになってきたのだと思います。そして、自立した姿は下の子へのお手本になり、頼もしさを感じられる姿が増えてきました。

また、体力がつきお昼寝の時間が減ってきた睡眠においては、自分の体と向き合う時間を大切にするをテーマにし、子どもたちに伝えていきました。体の成長と共に体力がついてきた子どもたち。「なぜ体を休める必要があるのか?」「なぜ今は静かに落ち着いて過ごすべきなのか?」など一緒に考えながら午睡時間を過ごしてきました。健康に元気いっぱいに過ごすために生活リズムを整えていくことは必要なことだと思います。

運動面では、室内での運動器具を使って体を動かす遊びによって体幹を養ってきました。様々な動きを身につけたことで、自ら挑戦する意欲が芽生え、友だちと共に体を動かす楽しさを日々味わっています。

これからも健康な心と体を育て、自分たちで生活の場を整えていけるよう環境を作っていきたいと思います。

【人間関係】

下の子が入りお兄さんお姉さんになったららんらん組。初めは関わりを意識はなかったものの、一緒に生活を過ごしていくうちに気にかける姿が増えてきました。遊びのルールや物の使い方だったり、自分たちが教えてもらってきたことを「こうするんだよ」「今は〇〇ゾーン空いていないよ」「やってあげようか?」など子ども達なりの関わり方や言葉掛けを繰り返したりしていました。また後半になり、お当番活動からお手伝いへの意識が芽生え、下の子のお着替えを手伝ったり、大人の仕事を見て「やってあげる」「僕も（私も）やりたい」と思ったり、意欲的な姿が出てきました。そんな姿から、「教えてあげることができた」「伝えることができた」「僕（私）できたよー」と自信や達成感のような喜びを感じて

いたように思います。

気の合う友だちとの関わりが深まり、好きな遊びを自分から誘い遊びを発展させる姿が増えました。好きな遊びを通して友だちと関わる姿だけでなく、好きなお友だちと〇〇して遊ぶのが楽しい！一緒に〇〇したい！と友だちがいるから楽しいし面白い、遊びたいと気持ちの変化が見られるようになりました。時には、自分と相手との意見の違いでぶつかり葛藤することもありました。自分たちで話し合いをし、自分の思いを伝えたり、相手の気持ちに気づいたり…相手とのやりとりに難しさを感じながら、子ども達なりに試行錯誤を繰り返し学んできたことは多かったと思います。子どもたちは人との関わりを経験する中で、相手に対する信頼感や思いやりの気持ちが育っていくのです。

【環境】

ゾーン遊びの活動では、今年は新しいゾーンとして「伝承遊び」「レゴブロック」「屋上」が新たに加わり様々なゾーン（環境）の中で遊びを深めることができました。初めはできなかったコマ回しにあやとりでしたが、子ども達は手に取った日から、できるようになるまで何度も挑戦し、友だちや大人の助けを借りながら経験を積み重ねてきました。そして今では得意気に「先生！見てね～」「ほら、できたよ～」と伝えに来てくれ、自信に満ち溢れた表情で輝いています。得意なことが増えていくことで自信につながり、また新たな挑戦につながっていく気持ちが育ったように思います。

公園先では、様々な自然物（虫や草花）と出会い、興味関心を広げていきました。夏にはたくさんの昆虫採取を繰り返し、生命の尊さにも気づき、捕まえてきて観察をした後には、ベランダから逃がしてお見送りをする場面が見られました。「バイバイ、元気でねー！」と声をかける子どもたち。これからも身近な生き物を大切する心を育てる環境を更に広げていきたいと思います。

【言葉】

友だちとの関わりが深まったこの一年間。友だちとの遊びが楽しくなり、面白くなり、深まってきたからこそ、やり取りの中で葛藤することが増えました。自分のしたいこと、して欲しいことが言葉で伝えることができ、相手が応答してくれた時には喜びを感じることができるでしょう。しかし、自分の気持ちや思いをうまく言葉にできずに悲しい気持ちや怒りの気持ちになったり、自分の思いだけを伝えるのに精一杯で感情が溢れてしまったり、そんな場面が何度もあったよう

に感じます。相手にわかって欲しい、伝わって欲しい、そんな気持ちが生まれて伝え方に悩むこともあったと思います。生活を共にする中で、言葉にして伝えることも大切ですが、相手の気持ちに寄り添う聞く姿勢も大切だと感じます。お集まりや活動を通して、話をよく聞き理解すること、次第に相手の思いを汲み取ることもできるようになってきたと思います。

またこの一年で文字への興味が深まり、読むこと・書くことが増えました。自分の名前から、身近な人の名前を書くことができるようになり、自分の気持ちや書きたいことを文字にして伝える喜びや楽しさを味わっています。

【表現】

製作遊びが大好きならんらん組。物作りやぬりえを通して、豊かな感性が養われたように感じます。友だち同士でのやり取りの中に「ここは〇〇色にしようよ」「ここはどうやって作ったらいい?」「ここは〇〇してみようよ」と感じた事、思った事を伝え合い、表現し合う姿が多く見られました。お互いのイメージが合うと、その後もどんどんアイデアが浮かぶようで、気付けば素敵な作品が生まれていました。これからも友だちと一緒にイメージを共有し合う楽しさや喜びを感じながら、表現する楽しさを味わい続けて欲しいなと思います。

そして、お楽しみ会の劇遊びでは、子ども達なりに表現を工夫する姿がたくさん見られました。物語を知りながらも、劇遊びを何度かするうちに、役になりきるためにセリフに合った動きをつけてみたり、セリフを自分たちで言いやすいように変えてみたり…いろいろなイメージを膨らませて演じる楽しさを味わっていました。

すいすい組

【健康】

●自信に満ち溢れた子どもたち

昨年度は年長児がいなかったため、“初めてのすいすい組”として過ごしてきました。はじめはすいすいさんのイメージをつかめず、自分の生活を作ることに精一杯な様子でした。何をするにも『ちょっと自信ないな～』『どうやればいいのか』となかなか周りを見て行動する余裕がない姿もありましたが、毎日を過ごしていく中で「さすがすいすいさん！」と思える場面がたくさん見られるようになりました。

お当番活動や行事、年下の子のお世話など様々な活動を通して、今では「ぼく(わたし)やるよ！」と「こうすればいいんだね」と周りの様子を見て手を差し伸べたり考えたりと自分たちで生活の見通しを持ちながら何事に対しても自信を持って取り組むことができるようになりました。そんな姿を身近で見ていたわいわいさんやらんらんさんにとっても大きな刺激となりました。“優しくてかっこよくて頼りになる”すいすいさんは、今では憧れる存在になりました。ふとした瞬間に「抱っこして～」と甘えてくる姿はまだまだかわいいです♪

【人間関係】

●自立心の芽生え

すいすい組になり絵本整理や椅子拭き床拭きのお当番活動をしてきました。始めたころは、「やりたくないな～」とマイナスな発言も何度かありました。“誰のために、何のためにお掃除や絵本の片付けをしているのだろう？”“なんですいすいさんがお当番活動をやるのだろう？”と子どもたちと話し合い、考えてきました。日が経つにつれて成長を見せてくれるすいすいさん。「やりたくないなあ…けどやらなきゃ!!」とお当番表を見て自分の気持ちと向き合い取り組む姿が見られるようになり大きな成長を感じました。お当番活動をしていく中で『やりたいことだけをやる』だけではなく、時に『しなければならないことを自覚し行動する』ということができるようになりました。「今日は椅子拭き床拭きだ」「今日はボランティアだからお手伝いしよう！」とか、今では「自分たちで“こうやろう!”」など、子ども同士で声をかけ合い協力しながらテキパキとお当番活動をする姿が見られる様になり、子どもたちの心の育ちを実感しました。

●友達っていいね！

友達が大好きなすいすいさん！気がつくといつも子ども同士で集まって楽しそうに笑い合っています。“友達大好き！”そんな思いが溢れ出ている子どもたちです。今までは気の合う友達数人と遊ぶことがほとんどでしたが、最近は大勢で遊ぶことが増えました。人数が増えるとみんなが同じ方向に向かうまでにトラブルになることもあります。そんな時は解決に向けてお互いの思いや考えを伝え合っています。

公園に着くと「鬼ごっこしよう！」と集まりみんなで長い時間走りまわっています。これまで、大人を遊びに誘い子どもと大人のやりとりが多くありましたが、今は友達が存在が大きくなり“一人で遊ぶよりみんなで遊ぶ楽しさやおもしろさ”を知り、自分たちで遊びを広げることができるようになりました。大人が入らなくても“自分たちで声をかけあって集まり、ルールのある遊びを楽しむ”これは、すいすいさんだからこそ味わえる楽しさであり、遊び方だと思います。

【環境】

●書道の活動

らんらん組の頃から文字への興味があり、読んだり書いたりを楽しんでいました。すいすい組になり書道の活動をおこない色々な文字に触れてきました。「今日は書道ある？」と毎週楽しみにしていた子どもたち。鉛筆で書きなれた文字だけど筆を使って書くと「なんだか難しい！」「緊張する！」といつもと違う緊張感を味わいながら楽しく取り組んできました。書き終えた文字は、その子らしい味のある字になっていて十人十色で素敵な作品になりました。書道の活動を通して文字への関心が高まり、「月曜日の“げつ”って漢字でどう書くの？」「水曜日って“みず”って書くんだよね」や、お当番表の日付を率先して書いたり、文字や数字への関心がますます高まったように感じます。強制して教えるのではなく、遊びや生活の中で自然と色々な文字や数字に出会い学んでいく姿は子どもたちの世界を広げています。

【言葉】

●すいすいミーティング

お話することが大好きで「ねえねえ、聞いて！」 「ぼく（わたし）ね、・・・」とお部屋は子どもたちの生き生きとした会話で盛り上がっています。この1年で特に印象深い出来事は『おとまり会に向けた話し合い』でした。夕食のメニューをどうするのか数日間にわたりすいすいミーティングを行ってきました。自分の意見を伝えるだけでなく、友達の話聞き友達の思いに寄り添う、時には我慢することを、ミーティングを通して“話し合う”難しさを感じながらも、言葉を伝え合う喜びを通してみんなで一つの物を作りあげていく姿に成長を感じました。

【表現】

●おたのしみ会を通して

「エルマーのぼうけん」の劇遊びを通して一人ひとりが持っている表現する力を発揮してくれたように感じました。恥ずかしさはあるながらも自分がイメージした役の話し方や動きをつけて子どもたちなりに表現していました。みんなで物語のイメージを共有して表現できる姿はさすがすいすいさんですね。最近では「紙芝居読みたい！」と率先してわいわいさんやららんさんの前で紙芝居の読み聞かせをしています。みんなに聞いてもらうおもしろさに気づき自分なりに表現することの喜びを味わっています。

調理

「食べること」は生きるための基本であり、子どもの健やかな心と身体の発達に欠かせないものです。「なにを」「どれだけ」食べるかというだけでなく、「いつ」「どこで」「だれと」「どのように」食べるかという事が重要です。さらに食事は五感を使うので、子どもの発達にはとても重要になってきます。

- 【嗅覚】 食べ物の匂いをかぐ。
- 【視覚】 食べ物を見る。
- 【触覚】 食べ物に触れる。
- 【聴覚】 口に入れ嚙んだ時の音を聞く。
- 【味覚】 味を感じてみる。

食事という一連の流れで五感を全て使っています。保育園では年齢が上がる
とクッキングをします。そこで、様々な五感を使い、更に協力することでコミュニケーション能力も育ちます。今年度は「味わう」をテーマに和食のお吸い物のお出汁を2種類、誕生会の昼食ではご当地味噌2種類を食べ比べ、五感を使いながら一年を通し食事をしました。日頃の行事食の様子を掲示から感じ取っていただけたらと思います。昼食で提供しているメニューのレシピもあるので、ご覧ください。

保健

今年度は「新型コロナウイルス感染予防」に細心の注意をしながらの保育になりました。新型コロナウイルスの粒子はエンペロープという膜で保護されており、多くは脂質二重層で出来ています。石けんは脂質をとかず作用があるため汚れと同時にウイルスを除去できます。毎日の手洗いで「石けんをよく泡立てて、手のひらだけでなく、手の甲や指先、指の間、手首まで全体的に洗い、しっかり流すこと」を目当てとし、声をかけたり、お友達やお兄さんお姉さんクラスの子も達と一緒にやる中で、みんな自然に習慣になっていきました。

成長展では、小さな手を一生懸命に洗う可愛らしい姿と、うがいの姿をご覧ください。また、「手洗い」でどのくらい落とせているのか視覚出来る「手洗いチェッカー」を設置します。現状の振り返りと、今後の手洗い方法の改善になりますよう、体験してみてください。

